

校内研修支援研修「言語活動の充実」百名小学校にて開催

島尻教育研究所の短期研修に校内研修支援研修があります。

8月21日(金)には「授業における言語活動の充実に向けた理論と実際に関する研修をとおして、校内研修の充実に資する」ことを目的とし、南風原町立南風原小学校 宮平やすみ教頭を百名小学校に講師として派遣し、研修を行いました。

「読む力を身につけた児童の育成を目指して」と題して、言語活動を取り入れた授業づくりについての理論と実践事例を基にした講話の後、実際の教科書にある教材の分析を参加者全員で行いました。教材文から読み取れる表現や言語の特徴を参加者全員が発表し、宮平先生に解説を頂きました。2学期からの実践に活かせる充実した研修でした。

講話の主な内容

- 1 単元を貫く言語活動とは
 - 言語活動とは
 - 実践事例
 - 交流の視点を示した言語活動の充実
 - 授業改善のポイント
- 2 やってみよう！これからの授業づくり
 - 教材分析
 - 実践事例



写真1 講師の宮平やすみ教頭



写真2 佐敷小の研修の様子

研修の感想 (アンケートから)

- 単元を貫く言語活動の教材研究の視点、ねらいのしぼりこみの大切さがよくわかりました。言語活動のネーミングの工夫も授業改善のポイントの一つと感じました。
- 単元を貫く言語活動の基本的な考え方が分かり、実践へ向けての意欲が出ました。実践授業の紹介もたくさんしていただき、参考になりました。
- 教材文を読み、言語活動について考え、意見を交流し合うことで様々な考え方、読取り方があることに気づけてよかったです。
- 実際の教材では、このねらいがあるから、どのような言語活動が位置づけられるかという実践的なワークを行うことによって意識が変わりました。教師も子どももワクワクするような活動をこれからも考えていきたいです。



写真3 講師を囲んで

